



藪尾根をつなぐ山旅 充実の春合宿

飯豊 水晶尾根～大日岳～門内岳～二王子岳

佐貫 他

【日時】 2009年5月2日(土)～5日(火)

【メンバー】L佐貫、田村、棚橋

標高が低く、道のない飯豊の尾根を今年のように雪の少ないGWに2つつなげて縦走するなんて、多分あまり賢いことではないのだろう。標高の高いところへ行ったり、道のあるルート歩いたりする方がずっと理にかなった行動だと思う。しかし雪の飯豊に取り組みでみようと思った以上、簡単に方向転換する気になれなかったし、年末年始に行ってみたい尾根にはまず残雪期に登っておきたかった。第三者から見れば全く意味のないこだわりであり、自虐的藪山行にもなりかねない妄想には誰もつきあってくれないだろうと思っていたら・・・篤志家は二人いた。

パーティーも成立し、4月第二週の下田・毛無山で残雪が予想より多かったことで一気に勢いづいた、と思ったら、翌週の川内・五剣谷岳のあまりの雪の無さと、そこから眺めた飯豊の黒さに一転、意気消沈。予備案として考えていた朝日の夏道のあるルートに変えるかどうか少し迷ったが、田村さんの「初志貫徹」の言葉に気を取り直す。棚橋さんの提案で4/25に入山口の偵察に出かけたところ、c798までは道があり、下部の藪はかなり回避できることが判明した。天気の大きな崩れもなさそうだし、これはいけるんじゃないかと期待しつつムーンライトえちごに乗り込んだ。

5/2 快晴

鹿瀬駅から津川タクシーで実川集落へ。前に3回は乗せてもらったことのある運転手さんだった。「山神社」の反対側にある道(地形図に記載のある、裏川に抜ける道)を登り始める。ブヨがうるさい。乗越からは鉄塔の巡視路がはっきりと続いていてこれで標高790mまで稼げる。偵察時、下部で水や雪の補給が全く出来ないことが分かったので、いつもよりもずっと多く背負った3Lの水がずっしりと肩に食い込み、強い陽射しと共に容赦なく体力を消耗させる。c790で向きを変える巡視路から離れ、踏み跡を辿るとすぐにc798だ。黒松沼というらしい平坦地で踏み跡がなくなったが、その先の緩い尾根は疎林で歩き易かった。次第に尾根が細くなるが、藪の濃い頂稜部から少し裏川側(西側)に下れば、ケモノ道なのかマタギ径なのかうっすらと踏み跡を辿れる。標高1000mを超えても一向に雪はない。高目当の前後が最も藪が濃かった。このままでは今日の幕場は土の上、雪もどこかに取りに行かないと・・・と覚悟する。

前方が小さいギャップとなり、その先に急な岩の斜面が立ち上がっていて「どこを登るの?」と言いたくなるような風景が現れた。「大根下シ」だ。まさにおろし金のような凹凸のあるスラブ帯。救いは灌木が表面を覆っていることで、これを使ってザイルを出さずに通過できるが高度感はそれなりにある。古いフィックスロープあり。100mほど登ると頂稜となり、踏み跡が復活した。これを進むとやっとなとまった雪が出てきて、待望の水晶峰1175mであった。雪の上で泊まれることに大喜びしながら明日の進路を眺めると、まだまだ黒い・・・。「♪明日もヤブ 明日もヤブ 明日もヤ～ブ～さ～」(「明日があるさ」のメロディーで)とヤケクソで歌いながら整地、鉄人・田村さんが担ぎ上げたビールで乾杯した。

【ザックを下ろして】

ついに来ました水晶尾根。身動きの出来ない藪を予想していただけに、遥かにマシでほっとした。雪の上に泊まれたので今日は良しとしよう。(佐貫) / 春合宿は楽しい! 新緑と、むせるような



森の香り。でも明日の行程が真っ黒でガ・ク・ゼ・ン♡（田村）/想像していたより雪は拾えなかったが、思ったより藪はひどくなかった。とりあえず水晶峰まで来れてよかった。（棚橋）

5/3 晴れのち曇り

昨日せっかく雪が出てきたというのに、彼方の笠掛山へ延びる稜線は眼下に黒々として

いる。雪は無いも同然だ。天気は問題なさそうなので、覚悟を決めて進む。水晶峰の下りは太いブナ林で気持ちのいいところだったが、すぐ雪はなくなった。しかし意外だったのは、ところどころ雪が残っていたことと、藪が思ったよりひどくなかったことだ。足元を良く見ると、踏み跡らしきものが残されている。またナタ目らしきものも見られた。猟師が利用したりもしたのだろう。つる性植物も少なく、灌木の抵抗も単発なのでさほど手ごわくない。思ったよりずっと楽に早く、笠掛山に出ることができた。笠掛山の手前で休んでいると、数百m後ろに人影が！我々の他にこんなところに来る方にぜひお会いしてみたかったが、結局追いついてこなかったのは残念であった。笠掛山を過ぎるとまた雪の量が増えてきて



マタギ径？

一安心。藪はあるが雪をつないで登っていく。約1時間ごとに小ピークがあり目標となるのはありがたいが、せっかく登った標高がまた下がるのは、精神的にダメージが大きい。櫛ヶ峰からははっきりした道が出てきてホッとした。

朝は裏川を挟むように見えた大日ヶ岳が、自分とほぼ同じ高さの間近に迫ってきてうれしい。ようやく本来のGW雪山縦走となってきた。しかし眼前には牛首山が厄介な存在だ。あれが無ければ早いのに…。この頃から大日ヶ岳に時折ガスがかかるようになる。牛首山からの登り返しは出だしが急で、正面やや左の灌木帯を越える。後はゆるゆると山頂へ。あいにく視界は悪かったが、達成感で一杯。

すぐに先へ向かう。急な下りは幸い雪がゆるく、アイゼンなしで全く問題なし。ガスの切れ間から見ると、飯豊川の向こうに低く延びる尾根が見える。思いのほか白い。まさか、あれ？目を疑ったが、やはり間違いない。水晶尾根に比べ、明らかに白い。（これなら行けるかも）期待に胸がふくらむ。この日はカイラギ小屋まで伸ばしたかったが、私がばてて足を引っ張ってしまい、結局予定通りの御西小屋まで。でもまあ、ここまで来られただけで良しとしよう昨年来た時は我々だけの独占であったが、今年は人で一杯。夜に目が覚めてしまうほどの暑い夜だった。

【ザックを下ろして】

昨日、テン場から見た藪斜面には道があった！助かった！大日までの登りは疲れたけど、無事御西小屋に入れてよかった～（佐貫）/思ったよりは歩き易かったけど、バテバテでした。もう年だなー。（田村）/道（と言っても踏み跡程度であるが）が辿れスピードが上がった。マタギの方々に感謝。明日も頑張ろう。（棚橋）

5/4 晴れ

快適どころか暑い位だった御西小屋の2階で、連日の3時起床。今日の行程はやや長いので、静かに準備を整えて小屋を後にする。

門内岳まではこの季節なら、視界さえ得られれば問題ない。時折立ち止まって飯豊川方向に目を向けたりしながら烏帽子岳を目指し、今度は洗濯沢を横目に滑降ラインを求めながら梅花皮小屋へ向かう。途中、3人パーティーと擦れ違った。小屋で小休止を取り、昨年と同様に小屋近くの水場で美味しい水を汲む。

北股岳を越えると、これから進むルートがいよいよ近づくが遠望した通り、白いことを



確信する。これなら何とかかなりそうだと気持ちも高まる。そして門内岳からはトレースのない胎内尾根方向に向かって、高度をぐんと下げる。少し進むとアイゼンのトレースがある。1~2日前のものか、更によく見ると我々と同じ方向のものようだ。右に目を向ければ大瀬戸沢が見える。この沢は遡行機会に恵まれず、過去2回も入溪前敗退を繰り返している。

日差しが強くなり気温も上昇してきたので、二ツ峰の手前で上着とオーバーズボンを脱ぐ。そして雪が大分溶けかけている二ツ峰に取り付く。雪の状態を鑑みながらシュルンドを跨ぐと鎖が固定されている。ピークを越えるといよいよ猛烈な藪に突入する。しかし下降なので、それほど苦労はない。少し下った所で、左側に見えた雪渓に下り立つ。先を眺めるとこちらに登って来るパーティーが見えたので、佐貫が興奮気味にコールを送る。落ち合った所でお話をしたところ豊栄山岳会の方々で、加治川林道より赤津山経由で辿られたとのこと。更に同じ会の方が単独で二王子神社からこちらを目指していることも聞く。御西小屋でお会いした新潟山岳会、二王子岳から下山路でお話した下越山岳会といい、飯豊は新潟の岳人に親しまれていることを改めて実感する。

その後は雪時々藪といった感じで快調に進み、13時過ぎには藤十郎山を越える。それから1時間ほどで幕場予定地の万石平に着く。今日の行程を終えるにはまだ早いので先に進む。千石平を越えた付近に豊栄山岳会の方々の幕営地があり、ここで一休みしながらここで泊るか、先に進むか協議をする。この辺りで切り上げたいところではあるが、今日中に赤津山を越えておけば明日下山することも可能となってくる。ということで、もう一頑張りすることになった。そうこうしている間に、単独の方が赤津山方向から降りてきた。今朝、二王子神社を出発したと聞き驚いたが、今日中に門内小屋まで行く予定だったとお聞きし更に驚いた。依頼されていたことを無事伝達して別れる。赤津山の山頂を踏み、いよいよヤングン峰へと思った矢先、稜線通しは雪が割れていて通過できないので、少し戻ってトラバースを強いられた。最後までアップダウンで可愛がって頂き、漸くヤングン峰のピークを踏む。そして少し下った所に幕営地を求め、長い一日を終えた。

【ザックを下ろして】

ヤングン峰まで進めるとは思わなかった。条件に恵まれ感謝。明日は打ち上げといこう。(佐貫) /次第に近づいてきた二王子。完走の可能性大となりとてもうれしい。でも正直疲れた。(田村) /門内を越えてから俄然雪が増え、ヤングン峰までたどり着くことが出来た。明日は目の前に広がるヤブを越え下山するのみ。(柵橋)

5/5 快晴

今日は何としても二王子を踏み、下山して打ち上げだぜ！ラジオの天気予報はやや下り坂を告げるが、雨が降り出す前に藪抜けしたいので本日も5時前に出発。今日の替え歌は「♪にっちもさっちもあっちもこっちもヤブだらけ」

(「ブルドッグ」より)でスタート。最初の目標は柵取倉山である。出発してから30分程度は雪を拾えたが、いよいよ尾根は細く黒くなり両手を広げて藪が私達を歓迎しているようだ。歓迎に応えるべく、その懐に飛び込んでゆく。今年同様の寡

雪の年の記録によればかなり長い密藪区間とのことで恐れていたが、ヤングン峰から二王子に向かう分には最低鞍部まで下り勾配が多いので助かる。加



奥は柵取倉山、ほんの第一目標...



えて、苦手なツルも少ないので気が楽だ（気合が入っていたからか？）。時折、「藪記念写真」を撮りつつ、替え歌マイスターの新作も披露されつつ、まあまあのスピードで雷岳1193mに到着。せっかく登ったのにここから1022mまで一旦下らなければなら



遠かった二王子岳に立つ

ないのは何とも勿体無いが、あと標高差200m、ポコ5つ！と自分に言い聞かせる。足元にはカタクリの群落、頭上からは励ますようなウグイスのさえずり。谷から上がってくる新緑と、何やら恐ろしげな作四郎沢源頭の灰色の側壁。予報に反して快晴となった青い空の下、五感に飯豊の春の息遣いが迫ってくるようだ。

約4時間にわたる藪からも9時20分に解放され、「月の砂漠」のような白い斜面を二本木山に向かうと、登山者が一人休んでいた。二王子岳まではまたしても登り返しに大汗をかかされるが、せっかくならキリよく11時前に着きたいと時計を見ながら走るように三角

点へ。10:55だった。来し方を眺め、感慨も新たに記念撮影、そして田村さん秘蔵の（まだあったなんて！！）黄金のビールで乾杯。春霞の越後平野目指して一目散に駆け下り、しだれ桜が満開の二王子神社が4日間の合宿のゴールとなった。

メンバーの感想

山行募集の文章そのままに、美しい稜線を辿り、はるかな高みに達し、最後は春霞たなびく越後平野を望むという素晴らしい山旅であった。途中の藪はむしろ予定より少なかったと言えるだろう。こんな計画を思いつき、実行するのはやはりリーダーの強い意思のおかげだとつくづく思う。今年もこういった心に残る山ができ、本当にうれしい。（田村）

懸案のルートをと、残雪期ではあるが漸くトレースすることができた。自分の中の主要なピークが繋げられて、充実感で一杯である（烏帽子山が入っていないのが寂しいが）。このようなルートをと、厳冬期に計画できるようになりたい。（棚橋）

「初志貫徹」田村さんの一言に背中を押されたかのような山行スタートだった。執念深い割には実行力がなく、日和って完遂を逃すことの多い私でもこうやって数年来の夢のルートを踏破できたのは、条件に加えメンバーの気持ちが揃ったからに他ならない。これからも、季節を問わず静かで長大なルートにこだわっていきたい（体力と相談の上）。（佐貫）

【行程】

- 5/2 実川集落(8:10) - c790巡視路から離れる(9:55/10:05) - 高目当(11:40) - 水晶峰(15:07)
- 5/3 出発(4:55) - オコナイ峰(9:10) - 櫛ヶ峰(10:19) - 牛首山(11:42) - 大日岳(12:55) - 御西小屋(14:20)
- 5/4 出発(4:45) - 梅花皮小屋(7:20/35) - 門内岳(8:50) - 二ツ峰(10:27) - 藤十郎山(13:05) - 赤津山(15:00) - ヤンゲン峰(16:35)
- 5/5 出発(4:53) - 枅取倉山(6:55) - c1175で藪終わる(9:20) - 二本木山(10:30) - 二王子岳(10:55/11:25) - 二王子神社(13:25)

【地形図】 日出谷、飯里、大日岳、飯豊山、二王子岳、上赤谷



2009/5/12 ~ 5/15

飯豊・水晶尾根 ~ 大日岳 ~ 阿内岳 ~ 二王子岳
概念図

